

市民ライター
小林 勉さん

●こばやし つとむ
登別東町在住。
白老郡白老町出身。元郵便局員。現在、登別市文化協会の副会長と登別川柳社の代表を務める。



▲不法投棄現場を視察する小林ライター（左）

まちが、自然が、心が、荒らされる

ごみのポイ捨てと不法投棄

寒々とした光景が広がる
不法投棄現場

「昨年11月、市は、不法投棄されたごみの撤去を市内12カ所で行いました。その量は、燃やせるごみが約13ト、燃やせないごみが約20トにもなりました」と話すのは、環境資源課で不法投棄の防止業務をはじめ、清掃指導などを担当している班長の田村政司さん。ごみには、タイヤ、洗濯機、冷蔵庫、テレビ、オートバイ、自転

まちや海岸、山に捨てられているペットボトルや弁当の空箱、タイヤ、家電製品など、たくさんのごみ。これらを放置することは、美観を損ねるだけでなく、環境汚染も招いてしまいます。ごみのポイ捨てや不法投棄の対策に取り組んでいる皆さんを訪ね、現状についてレポートします。



田村 政司さん

車などもあり、クリンクルセンターで処理できないごみは、税金を使って、専門業者に処理を依頼しなくてはならないそうです。さっそく、田村さんに最近発見された不法投棄現場を案内してもらいました。山奥の笹が生い茂る沢2カ所に、主に家財道具が捨てられ、現場はうっすらと雪をかぶ



市民レポートは、市民の皆さんが自由に発想・企画するページです。

り、寒々とした光景が広がっていました。山の中にごみと一緒に捨ててしまった心。この寒い心が市民の良心を超えてしまったときの怖さを感じました。

不法投棄のごみを調べた結果、投棄者が判明した場合は、回収を指示し、不明なものは市で回収しています。特に悪質な場合は、警察に通報しているそうです。

「不法投棄は、主に山間部に多く、転居が多くなる3月、4月と大掃除が行われる12月に増加しますね。対策としては、市職員や警察の巡回のほか、啓発看板の設置などを行っています。昨年7月、8月には、市・室蘭警察署・来馬町に演習場を管理する陸上自衛隊幌別駐屯地が合同で夜間巡回パトロールも実施しました。このほか、郵便局・タクシー会社の協力により、不法投棄を発見した際に通報